

自然と信仰が息づく 生まれかわりの山

出羽三山

日本遺産となった東北の山岳信仰の聖地

古田尚也

— IUCN 日本リエゾンオフィスマネージャー

修験の聖地である羽黒山山頂の池と杉の巨木群、死者の霊が集まるといふ月山の山上他界、巨石から湯が湧き出る三山総奥の院湯殿山……。出羽三山は、生まれかわりという物語を今も語り継いでいる。

撮影 ● 古田尚也

羽黒修験の聖地 出羽三山

山形県村山・庄内地方に広がる羽黒山・月山、湯殿山は、出羽三山と総称される。この出羽三山は、近畿の大峰山、九州の英彦山と並び修験の三大霊場の一つとして、古くから人々の信仰を集めてきた。明治の神仏分離以前は、羽黒山大権現、月山大権現、湯殿山大権現が祀られ、本地垂迹説に基づきそれぞれの本地仏は、羽黒山が観音菩薩、月山が阿弥陀如来、湯殿山が大日如来とされた。明治以降これらは神道化され、現在三山の頂上には、出羽神社、月山神社、湯殿山神社がある。

三山のうち、標高が414mで最も低い羽黒山の山頂にある出羽神社には、三山の神を合祀した三神合祭殿が設けられ、冬期は雪に閉ざされて登拝できない月山と湯殿山の神々もあわせて詣でることができるようになっている。

また、月山、湯殿山は江戸時代までは女人禁制だったが、羽黒山は女人の参詣も許されていたため、三山への祈願は羽黒山で行われていた。

羽黒山は、三山の中では最も日

Naoya Furuta

大正大学地域構想研究所教授。
東京大学大学院農学生命科学研究科
博士課程単位取得退学。三菱総合研究所を経て、
2009年よりIUCN（国際自然保護連合）の
日本オフィスにおいて生物多様性に関する
国内外の政策展開に従事する。



4 霧に包まれる出羽神社。5 御手洗池越しに見える三神合祭殿は、高さが約30mにも達する巨大な建築物で、厚さ2m以上の茅葺屋根を持つ。6 羽黒山のご神体である御手洗池の神秘的な姿。鏡池とも呼ばれ、池の中からは古鏡が多数出土している。



1 平将門によって創建されたと伝えられる国宝五重塔。2 出羽三山を開山した能除太子が座ったとされる岩。3 現在登拝者の宿泊所や食事処となっている羽黒山齋館は、かつて山中に30以上あった寺院の中で唯一残った建物。



御手洗池の前に建つ国の重要文化財にも指定された三神合祭殿は、高さが約30mにも達する巨大な建築物で、その厚さ2m以上の茅葺

きたのは、三神合祭殿前にある御手洗池である。森に包まれた山頂に突然現れるその荘厳で神秘的な姿を目にすれば、この池が古くから信仰の対象となってきたことを納得できるだろう。なお、鏡池とも呼ばれるこの池からは、平安時代後期から鎌倉時代にかけてのものを含む古鏡が多数出土しているという。

山中の池——御手洗池と峰入り

羽黒山で古くから信仰を集めてきたのは、三神合祭殿前にある御手洗池である。森に包まれた山頂に突然現れるその荘厳で神秘的な姿を目にすれば、この池が古くから信仰の対象となってきたことを納得できるだろう。なお、鏡池とも呼ばれるこの池からは、平安時代後期から鎌倉時代にかけてのものを含む古鏡が多数出土しているという。

出羽三山の中で標高が最も高い月山（標高1984m）は、古くからその山頂に死者の霊が集まる山とされてきた。実際、月山の本地仏は阿弥陀如来であり、月山は極楽浄土と観念され、山中には8合目の弥陀ヶ原、9合目の仏生池、山頂近くには賽の河原などの地名が残る。このうち、標高1400m付近の弥陀ヶ原には湿地が連な

死者の霊が集まる山 極楽浄土としての月山

屋根とあいまって圧倒的な存在感を放っている。能除太子が行った修行をたどり、山中で行われる修行は峰入りと呼ばれる。以前は春夏秋冬の四季それぞれに峰入りがあったが、春の峰入りは現在行われていない。この中でも秋の峰入りは、山伏養成を目的としたもので約1週間の山籠りを中心とした修行が行われる。秋の峰入りでは地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天・声聞・縁覚・菩薩・如来という十界を修行者が通り抜けることで擬死再生、すなわち生まれ変わりを果たし、即身成仏の山伏となることが目指されている。

五重塔を過ぎると、一の坂、二の坂、三の坂と急な登りが山頂に向かって続く。そして、随神門から1時間ほどで、羽黒山山頂入口を示す鳥居にたどり着く。近くには、能除太子が座ったとされる岩があり、鳥居近くに建つ羽黒山齋館は、かつて山中に30以上あったという寺院のうち、明治の神仏分離後に残った唯一の建物である。現在は、参拝者の宿泊場所として、また、精進料理の食事処として活用されている。

ミシユランの三つ星に認定された杉並木

羽黒山の入口となる随神門をくぐると、目の前に羽黒山のシンボルである杉並木が目に飛び込んでくる。杉並木は、ここから2466段、約1.7kmの石段が羽黒山山頂まで続いている。参道の両脇には、樹齢300年から500年を超える杉の巨木が580数株も立ち並ぶ。国の天然記念物にも指定されているこの壮大な杉並木は、慶長から寛永（1596〜1644）にかけて植林されたもので、『ミシユラン・グリーンガイド』では三つ星に認定された。

この羽黒山は、その異形の姿が印象的な「能除太子」が三本足の鳥に導かれ開山されたと伝えられている。この能除太子は、崇峻天皇の子、蜂子皇子だとされ、役行者に先立つ欽明年間（六世紀中頃）に羽黒山、月山、湯殿山の三山を開山したと伝えられる。能除太子は、異母兄弟に当たる聖徳太子のもとで仏法を修行し、般若心経を専ら唱え、その経文中の「能除一切苦」という言葉のように、病気を治すなど人々のあらゆる苦を除く力があつたところから、このように呼ばれるようになったとされる。

これが、国宝の羽黒山五重塔である。高さ約30mのこの五重塔は、平将門によって創建されたと伝えられている。現在の塔は南北朝時代に再建されたもので、うっそうとした杉の巨木の中に立つ柿葺で素木づくりの均整の取れた美しい姿が印象的だ。

随神門から石段を下がっていくと、祓川にかかる赤い橋「新橋」が見えてくる。新橋をわたりさらに少し歩くと左手に、羽黒山でもっとも樹齢が古いといわれる爺杉にたどり着く。爺杉の樹齢は千年以上と言われ、国の天然記念物にも指定されている。参道をさらに進んでいくと、杉並木の中に五重塔が現れてくる。



月山の山中では、修験者や登拝者の姿もしばしば見られる。



1 月山9合目にある仏生池。2 仏生池で勤行する参拝者たち。月山には死者の霊が集まるとされている。3 月山8合目の弥陀ヶ原には湿地が連なり、夏季はニッコウキスゲやミスバシヨウ、チングルマなど高山植物の宝庫としても知られている。

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じてわが国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するという制度である。文化財や世界遺産の制度とは異なり保護を担保することを目的とするのではなく、魅力あふれる有形や無形のさまざまな文化財群を整備活用し、国内外に戦略的に発信することで地域創生につなげることが目的とされている。

出羽三山のストーリーのタイトルは自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」。出羽三山をめぐることが江戸時代に庶民の間で「生まれかわりの旅」として広がり、日本古来の山の自然と信仰の結びつきを今に伝えていることがテーマとなっている。

羽黒修験の拠点である羽黒山山頂の池と杉の巨木群、死者の霊が集まるという月山の山上他界、巨石から湯が湧き出る三山の総奥の院湯殿山。確かに、出羽三山は、それぞれの山が異なる強烈な個性を放ちながら、生まれかわりという物語を今も語り継ぎ、その実践を継承しているといえるだろう。

謝辞 ●本稿は、平成29年度大正大学学術助成金の支援を受けています。

り、夏季はニッコウキスゲやミスバシヨウ、チングルマなど高山植物の宝庫としても知られている。こうした自然を保全するために、この一体は警備朝日国立公園の特別保護地区にも指定されている。山上の湿地帯に咲き誇る花々、行者返しと呼ばれる急な岩山、空に突き出た山頂、賽の河原と観念されるガレ場、そして月山でよく見られるというブロッケン現象など、なるほどここが古くから「山中他界」とみなされてきた理由がよくわかる。

月山では一般の登山客に混じって、先達に率いられた白装束の登拝者グループやほら貝を鳴らしながら歩く修験者などが数多く見られ、羽黒修験の伝統が今でも息づいていることが体感できる。

現在、月山山頂の月山神社には、死者の世界を司る月読命つきよみのみことが祀られている。参拝者の魂はここで浄化され、生まれかわりに向けて再び歩み出すことになる。

三山の総奥の院 湯殿山

出羽三山の三つ目の山である湯殿山（標高1500m）は、古くから三山の総奥の院とされ、「語

る無かれ」「聞く無かれ」と戒められた霊場であった。その信仰の対象は沢筋にある、湯気を立てながら温泉を噴出する不気味な姿をした赤茶けた巨石である。羽黒山から、月山を経て、湯殿山でのご神体に対面した参拝者の驚きはいかばかりであっただろうか。自然の不思議に対する畏怖の念が湧き起こることを禁じえなかつたであらう。

参拝者は、神社境内で裸足となりこのご神体である巨石をよじ登り、手と足の裏から湧き出る湯の熱と自然がつくり出した不思議な力を体感する。

湯殿山はまた、土中入定の即身仏でも知られている。即身仏とは衆生救済のために入定を遂げ、死後もミイラとなって崇拜対象となった者のことをいう。このために、周辺に点在する大小の滝などの行場では、蠟燭が燃え尽きるまで水垢離をとる千日行や五穀断ち、十穀断ちをする木食行もくじけりやうなどが行われたという。

日本遺産となった 出羽三山

2016年（平成28）に、出羽三山は「日本遺産」に認定された。



4 湯殿山から月山に向かう険しい山道を登る参拝者。5 湯殿山周辺には、大小の滝などの行場が点在する。6 湯殿山神社の大鳥居。

